



時 栃 報 幼

題字／栃木県知事 福田富一氏

第 160 号

令和7年6月20日

一般社団法人 栃木県幼稚園連合会

〒320-0032 宇都宮市昭和1-3-10 栃木県庁金西別館

☎028(622)2821 FAX 028(622)2816

●編集人／齋藤 君世 ●発行人／船田 弘和
■栃幼連ホームページ <https://www.youchien.or.jp>



令和七年度を迎えて

栃幼連理事長 船田 弘和



幼児教育・保育の重要性を痛感し、皆様のご期待に応えるべく、日々奔走しながら過ごしておりますが、総会にて皆様と対面しながら前年度を顧みたり、反省するとともに新年度への課題をかみしめておりました。昨年度は関東地区大会の実施県として、責任を感じながらも時間を費やし慌ただしく過ごしておりました。実際には忙しい時間を過ごしていただいたのは事務局であった事は間違いありませんが、今年度は軸足を県幼稚園の役割や事業に置き、課題と向き合ってまいりたいと存じます。

先人から受け継がれてきた栃幼連という組織は、加盟園がそれぞれの

目的を達成するために、共有する課題に向き合い、組織全体で解決したは目的達成のために行動を共にすることにあります。そしてこれらの目的を達成するために必要なことは、力を合わせることであることは言うまでもありません。

振興連盟の総会で、石嶋会長が言にくい事をあえて言葉を選んでおっしゃっておりましたが、執行部の先生方は、それぞれに自園があり、職員も子どもたちもいる中で、時間を作って連合会や連盟の役割を担う活動を行っておられます。その先生方には、「活動を支えていますよ」という仲間の後ろ盾を感じることが重要なのです。私は理事長として当然の役割を担ってまいりますので、他の栃幼連、振興連盟、振興財団、PTAの執行部の活動をねぎらい、期待を込めてお支えいただきますようお願い申し上げます。

加盟園の子どもたちの健やかな成長、輝かしき職員・先生方のご活躍、

園の発展をお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

令和七年度を迎えて

こども政策課長 齋藤 成宏



一般社団法人栃木県幼稚園連合会及び会員の皆様におかれましては、日頃から本県の幼児教育・保育の振興はもとより、県政の推進につきまして、格別の御理解、御協力をいただいておりますことに、改めて厚く御礼申し上げます。

私は、この度の定期人事異動により、こども政策課長の職を拝命しました齋藤でございます。保健福祉部には一年ぶりに戻って参りましたが、児童福祉行政は緊急性の高い課題が山積しており、身の引き締まる思いでございます。前任の天海同様、何とぞよろしくお願いいたします。

さて、我が国では、急速な少子化の進行、核家族化や地域社会における人間関係の希薄化による家庭や地域のこどもを育てる力の低下、子育て家庭の孤立化、児童虐待の増加など、こども・子育てを取り巻く様々な問題は、深刻さを増しております。

そのような中、国においては、「こども未来戦略」の加速化プランに基づき、子ども・子育て支援を今年度さらに拡充させていくこととし、幼

児教育・保育の質の向上に向けた一歳児の職員配置基準の改善や保育士等の更なる処遇改善、全ての子育て家庭を支援するための「こども誰でも通園制度」の創設など、安心して子育てできる社会の実現に向けた施策が進められています。

県では昨年度、「とちぎ少子化対策緊急プロジェクト」として、市町とともに第二子の保育料免除に取り組んだほか、こどもや子育てにやさしい栃木県をPRするため、新たなキャッチフレーズ「こどもぎゅーとちぎ」を定めて子育て施策等の紹介動画を作成し、認知度向上や利用促進を図って参りました。

今年度は、新たに三名の外部専門家を栃木県少子化対策アドバイザーにお迎えし、その専門的知見に基づく助言や提案等をいただきながら各種施策の充実・強化を図ることとしており、引き続き、喜びのある子育てを応援できるよう、少子化対策に全力で取り組んで参ります。

すべての県民が「とちぎ」で生まれ、育ち、暮らす喜びと誇りを分かち合うとともに、次の時代を担う子どもたちが、夢や希望を持って健やかに成長できるよう、地域における子育て支援の中核的役割を担っていただいている一般社団法人栃木県幼稚園連合会や会員の皆様とともに幼児教育・保育の振興と子育て環境の充実に努めて参りますので、引き続き、皆様の御理解、御協力をよろしくお願いいたします。



栃幼連とともに

幼児教育センター長 前原 由紀



今年度、幼児教育センター長を拝命いたしました前原 由紀と申します。

さて、皆様には、日頃より、当センターの事業につきまして御理解・御協力を賜り、感謝申し上げます。併せて、認定こども園あかみ幼稚園の中山 昌樹理事長には、幼児教育指導員として、豊富な御経験に基づき研修に寄与していただき、重ねて感謝申し上げます。

指導主事時代に、栃幼連からの御紹介で、ある園の保育を参観させていただき、そこで年長組のAさんとBくんに出会いました。二人は、朝から「ちようどいい大きさの箱」を探していて、保育者に「ちようどいい大きさ」の説明をしていました。自分たちの中にある語彙をすべて使って説明しますが、保育者にはなかなか伝わりません。せっかく伝わったと思ったら、「そんな箱はない。小さい組にあるかも」と言われ、年少組の保育室に行きます。年少組の担任は、どうやらこの二人の元担任で、「あら、ちようどよかった!ここ手伝って」と言われ、箱がほしいという暇もなく、片付けの手

伝いをさせられてしまいます。年少組の子どもたちからも一緒に遊ぼうと誘われ、二人はしばらく面倒を見るはめに……。一区切りついたところで、二人は年少組の担任に「ちようどいい大きさの箱はないか」と尋ねます。先ほど、一度説明している

ので、ここでは、うまく伝えることができませんでした。しかし、「ここにはない。給食室に行けばあるかも」と言われ、今度は給食室に向かいます。三度目の説明は本当に上手で、あつという間に調理員さんに伝わり、ようやく「ちようどいい大きさの箱」を手に入れることができました。意気揚々と保育室に戻り、さて、作り始めようかとしたとき、無情にも片付けの時間になってしまふのです。しばらく二人は呆然としていましたが、やがて、Aくんが油性ペンを持ち出し、箱に「AとBのもの」と書いて、大事そうにロッカーの上に置きました。

この二人は、この時間の中でどれほどの学びを得たことでしょう。このような学びは、子どもの主体性を大切にする保育から生まれます。子どもの主体性を大切にしながら学びを保障してくださっている園の皆様を心から尊敬いたします。

全国的にも国公私立の分け隔てなく研修等に取り組んでいる県は他にはないと自負しております。これもすべて、栃幼連の御理解・御支援のおかげです。これからも架け橋期の教育の充実や幼児教育の質の向上を

目指し、栃幼連とともに尽力してまいります。今後ともどうぞよろしく願っています。

二月二十五・二十六日 三団体青年部合同研修

栃木県幼稚園連合会青年部は、栃木県私立保育連盟・栃木県日本保育協会との三団体青年部による視察研修を行った。

二月二十五日の午前に栃木市にある「認定こども園さくら」、午後に東京都台東区にある「台東区立たいとうこども園」、二月二十六日に東京都葛飾区にある「うらら保育園」の三つの施設を視察した。

「認定こども園さくら」では、子どもたちが主体的に活動できる環境を提供し、体験を通じて成長を促している。専門的に活動できる部屋「マルシェ」があり、そこには絵の具や筆、材料など保育室に置いていないものを用意し、子どもたちがやりたいことをより深くできるようにしていた。また、ランチルームタイムを設けており、クラス毎や学年毎ではなく、ごはんを食べたいと感じた時に自由に昼食がとれる環境になって



いた。これは子どもでも、人が人らしく、という考えから挑戦し始めたとのことであつた。

「台東区立たいとうこども園」は都市部に位置しながらも、子どもたちが自主的に学び、活動できる環境を整えている。園庭や施設内での活動を通じて、子どもたちの自主性を育んでいる。園庭では、子どもたちは生ごみや落ち葉などの有機物を微生物の力で発酵・分解させて堆肥を作るコンポストにも取り組んでおり、野菜や米などを栽培していた。五歳児はその栽培に携わった方



にぎりなどをふるまっておもてなしもしている。

「うらら保育園」では、昔の日本の家を彷彿させる家庭的な保育室で、子どもたちが自主的に活動できるよう工夫がされていた。「うらら保育園」は「自発性の尊重」と「環境を通じた保育」を大切にされてお



り、保育室などを見学させていただいた時に子どもたちがワクワクできる環境だと感じた。保育室の梁の上にも上ることも可能で、そのために



期日 令和七年五月二十二日(木)
会場 コンセーレ(アイリスホール)
 栃木県議会 議長 池田 忠様、栃木
 県保健福祉部 とも政策課 課長 齋

令和7年度 栃木県幼稚園連合会 定時総会



はある程度成長しないと気付かないようにしてあったり、目の届かない高さでも登れば見られるように段差を設けていたり子どもへの気持ちになつて環境構成をしていることがわかつた。

また、保育士のことを「先生」とは呼ばないようにしており、保育施設というよりも家庭の延長線上の施設という感じであつた。保護者も好きな時に園で給食を食べることが可能などところも印象に残つた。

この視察では、環境をしつかりと構成すれば、保育者が干渉しなくても自らやりたい遊びを見つけることができる子どもたちの姿があつた。

藤成宏様、栃木県幼児教育センター長 前原 由紀様、栃木県幼稚園連合会顧問の石嶋 勇様のご臨席を賜り、コンセーレにおいて、令和七年度定時総会が開催された。



今井副理事長が開会を宣言したあと、船田理事長の挨拶で物価高騰の中で、お米の高騰について切実な話

がなされた。また、「みんなであり良い環境、子どもたちの生活の未来を明るくしていけるよう栃幼連の活動を行っていききたい。」と述べられた。

続いて、ご来賓よりご祝辞を頂戴し、議案審議となった。

議長選出では、山辺幼稚園 園長 鈴木 典子先生が選出された。資格審査、議事録署名人および記録人の選出のうちに、議案審議へと移つた。議案では、報告事項として、令和六年度 事業報告を船田理事長、各委員会委員長より報告された。

審議事項では、第一号議案 令和六年度 収支決算書類および附属明細書の承認について審議し、満場一致にて可決承認された。



黒田副理事長

の閉会のことばで定時総会を閉会した。

【資格審査】

(百九十七園中)
 出席園 百十二園
 委任状出席園 七十一園

【議事録署名人】

真岡杉の子幼稚園 川崎 寛章先生
 認定こども園吹上幼稚園 酒井 龍宏先生

栃木県私立幼稚園振興連盟 令和七年度総会

期日 令和七年五月二十二日(木)
会場 コンセーレ(アイリスホール)
 令和七年度栃幼連定時総会終了後、栃木県私立幼稚園振興連盟の総会が開催された。



その後、以下の通り総会の議案に移つた。

【議長選出】

山辺幼稚園 鈴木 典子先生
 【資格審査】
 (百七十一名中)
 出席 九十名
 委任状出席 六十四名

【議事録署名人】

真岡杉の子幼稚園 川崎 寛章先生
 認定こども園吹上幼稚園 酒井 龍宏先生

【記録人】

渡辺 瑠菜氏(事務局)

【議案】

・第一号議案
 令和六年度事業報告並びに収支決算の承認について

・第二号議案
 令和七年度事業計画(案)並びに収支予算(案)の承認につ

て
 ・第三号議案
 自由民主党栃木県私立幼稚園支部令和六年度収支決算並びに令和七年度収支予算(案)の承認について

以上三議案は、すべて原案通りに可決承認され、閉会した。

総会終了後には県議会議員の方々を囲み、今後の幼児教育・保育とその振興について話し合いながら和やかな雰囲気懇談会が行われた。



教員養成校との懇談会

期日 令和七年五月二十六日（月）
会場 ベルヴィー宇都宮
出席養成校（順不同）

- ・宇都宮ビジネス電子専門学校
- ・宇都宮共和大学
- ・佐野日本大学短期大学
- ・足利大学
- ・國學院大學栃木短期大学
- ・白鷗大学
- ・作新学院大学女子短期大学部

主な懇談内容
県内の教員養成校七校（十一名）と栃幼連（正副理事長、常任理事あわせて九名）の懇談会は、主に次のことが協議された。

- 一、栃幼連加盟園による『合同就職説明会』六月二十九日（日）の実施について
 - 二、「就職情報誌」および「とちぎの幼稚園・認定こども園求人情報サイト」への広告（協賛）について
 - 三、教員養成校の進路状況実態調査について
 - 四、教育実習・保育実習について
 - 五、幼稚園・認定こども園などの就職に関する諸問題について
- 今年度で最後の卒業生を送り出すことになる足利短期大学こども学科（足利大学）を含む七校が参加した懇談会。

まずは、石川総務委員長の進行により、六月二十九日（日）に開催予定の『合同就職説明会』の日時や会場、QRコードによる受付方法などの説明があった。学生用のチラシとポスターを各校に配布するとともに、就職説明会と求人情報誌の周知を依頼し、教育実習中の学生に対しては、メールなどによる情報提供が検討された。



各養成校からの情報によると、就職活動における傾向として、福祉施設への就職希望が増加しており、就職を決めるにあたっては、実習先の影響が大きいことがわかった。また、勤務の時間を重視する学生が増え、通勤時間、休日、ICTや情報発信に要する時間が効率的であるかを鑑みて就職先を検討している学生もいるとのことであった。

教育実習に関しては、情報漏洩や個人情報管理に対する誓約書の必要性について協議された。実習ノートの指導が園によって異なることが学生間で話題となっている現状や、記録に使用する画像などの取り扱いについてなど、各校で指導を模索している状況がわかり、栃幼連としては、実習ノートに誓約書となる部分の追加を要望した。

六月の合同就職説明会は、学生が多くの園を知る機会となるため、卒業予定者以外の学生にも参加を推奨したい。就職情報誌も一年生から配布できるように、各校にと多めに送付することとなった。

学生にとって、保育が楽しいと思えるようなつながりを願う、和やかな懇談会となった。



＜教員養成校の進路状況実態調査票まとめ＞

	令和6年度（R7年3月）卒業生								令和7年度（R8年3月）卒業見込生											
大学（校）名 （五十音順）	卒業者数	幼稚園		認定こども園		保育所（園）		その他	その他に 就職した 具体的な職種	卒業 見込者数 （予定）	幼稚園		認定こども園		保育所（園）		小・中・高 等学校教諭	その他	その他に就職した 具体的な職種	
		県内	県外	県内	県外	県内	県外				県内	県外	県内	県外	県内	県外				
足利短期大学	29名	1名 (3%)		8名 (28%)		13名 (45%)		6名 (21%) 1名（不明）	障がい者支援施設、乳児院、一般企業・進学・他	39名	〈 調査中 〉									
宇都宮共和大学	50名	1名 (2%)		15名 (30%)		17名 (34%)		17名 (34%)	公務員（保育士）、児童養護施設、児童発達支援、放課後児童健全育成事業、障害者支援施設、特別支援学校、就職希望なし、等	40名	〈 調査中 〉									
宇都宮ビジネス電子専門学校	7名	0名 (0%)		2名 (28.57%)		3名 (42.86%)		2名 (28.57%)	児童養護施設、一般企業	9名	1名 (11.11%)	2名 (22.22%)	2名 (22.22%)	0名 (0%)	4名 (44.44%)	託児所・病院併設保育園、障害者施設				
國學院大學 栃木短期大学	21名	0名 (0%)		6名 (29%)		5名 (24%)		10名 (47%)	児童福祉施設・小学校教諭・中学校教諭、一般企業、資格取得、編入学	21名	4名 (19%)	5名 (24%)	4名 (19%)	6名 (29%)	2名 (9%)	未定				
国際看護介護保育専門学校	36名	1名 (2.8%)		7名 (19.4%)		18名 (50.0%)		10名 (27.8%)	放課後デイサービス・障がい者施設、児童養護施設など	32名	4名 (12.5%)	10名 (31.3%)	16名 (50.0%)	0名 (0%)	2名 (6.2%)	児童養護施設				
作新学院大学 女子短期大学部	96名	7名 (7.3%)		30名 (31.3%)		44名 (45.8%)		15名 (15.6%)	児童福祉施設、一般企業	81名	〈 調査中 〉									
佐野日本大学 短期大学	74名	1名 (1%)		29名 (39%)		25名 (34%)		19名 (26%)	児童発達支援、放課後等デイサービス、乳児院、編入学、一般企業	72名	〈 調査中 〉									
白鷗大学	86名	4名 (5%)		24名 (28%)		27名 (31%)		31名 (36%)	児童養護施設、一般企業、小学校教諭	74名	〈 調査中 〉									
合 計	399名	15名		121名		152名		111名		368名										

（※令和7年4月に各大学（校）に調査したものをとりまとめたものである）

研修会だより

令和六年度幼稚園等問題研究会

期日 令和七年三月十二日（水）

会場 ニューみくら（大会議室）

出席者

栃木県保健福祉部こども政策課

子ども・子育て支援班

班長 小川 元子氏

主任 越場 康介氏

主事 羽入 大喜氏

栃幼連 正副理事長・常任理事・

地区会長

メモ

感染症対策のために三年間
休会となっていた本研究会で
あったが、昨年度に続き無事開催さ
れた。

メモ

まず、船田理事長からの開会の挨拶として、より良い子育て環境への願いが述べられた。

振興委員長による司会のもと、以下の事項について協議された。

協議事項

・令和七年度 私立幼稚園関係予算について

・私学助成園における特別支援教育について

・本県の保育人材に関する現状と課題について

・その他、栃幼連 少子化対策アンケートについて

活発な意見交換が行われ、各事業の背景や今後につながる要望など、数多く議論された。今回の詳細について、県の考え、栃幼連の思いを各地区園長会等の折に地区会長からお伝えをお願い閉会した。



新規採用宿泊研修代替研修 マナーアップ講座

期日 令和七年四月十六日（水）

会場 ホテルニューイタヤ（天平の閣）

参加 百四十二名

内容 「社会人二年目のマナーアップ講座」

講師

株式会社こども保育環境研究所

執行役員・保育事業統括本部

齋木 里奈氏

メモ

新年度が始まって半月が経つこの時期、株式会社こども

保育環境研究所執行役員であり、保育園での勤務経験もある齋木 里奈

氏を講師に迎え、新採の先生方に社会人一年目のマナーや心構えを話していただいた。

まずは基本のマナーや、職場

での人間関係の重要さなどが述べられた。隣の先生同士で話し合う時間もあり、緊張をほぐしつつも関係性の大切さなどを確認させたりと、上手く流れを作りながら話が進んだ。齋木氏の話によれば、良好な人間関係の構築には非認知能力が必要とのこと。忍耐力や社会性、感情のコントロールなど、現に先生方が子どもたちと取り組んでいることは、大人の社会でも必要になる。



続いて子どもと接する上で大切な法律や権利などのあらましを聞いたのち、社会人としての話し方、来客、電話での対応や、敬語の使い方など、今後の社会人生活に必要な内容が細やかに説明された。



資質向上研修①「子育て支援」

期日 令和七年五月十三日（火）

会場 コンサール（大ホール）

参加 七十八名

テーマ 「子育ての支援〜こどもの幸せのために〜」

講師 りんごの木子どもクラブ

代表

柴田 愛子氏

メモ

私が幼児教育に関わり始めたのは五十数年前で、その頃は圧倒的に幼稚園が多かった。

だから、人に自分の子どもを託すことに緊張と不安があり、子どもをお迎えに来ると再会が嬉しくて親子で泣いたりした。柴田氏は、昨今の子育ての疑問と保育の可能性を会場に語りかけた。



今は時代が変わって保育の時間が長くなり、人に子どもを預けることが当たり前になった。便利で効率が悪くなったが、そこには何か落とし穴があるのではないか。保育料が無償になったから産んでも大丈夫、という問題ではない。



事例のひとつとして、コロナ前に赤ちゃんの声をともに、感情や要求を示してくれるアプリができた話が挙げられた。孤立しがちなお母さ



ん方はとても助かったが、心はほっとしない。人は人とながらからほっとするのであり、効率が悪くなったからほっとするのではない。保育者は荷物預かりになってはならず、擦り傷切り傷を覚悟しながらも、保護者の心配が安心に変わっていくような信頼関係を育てていくことが大切である。

私たちの大きな仕事は、人の一生のほんの一時、親子関係の絆を太くしてあげるお手伝いをするのである。どんな立派な保育より、一番大切なのは親子の絆だ。親が「産んで良かった、この子で良かった。」というメッセージを我が子に伝えられるよう、保育者として支援していきたい。

子どもは迷惑をかけながら楽しんで育っていく存在であり、迷惑をかけたっていい。迷惑をかけてもいい人といかにつながれるかが、自分の生きやすさにつながる。周りや平均値ばかり気にして子育てをしている保護者が多いが、何度言ってもやめないものはその子に必要なもの。子どもは自ら育つ力を持っており、その延長線上に今があるのだ。

子どもがどう育とうとしているのか。今、何を望んでいるのか。親や保育者が子どもの声に耳を澄まし、子どものありのままを良しとしてくれたら、その子は自分で前に一歩足を進ませることができはす。

第一回 〇・一・二歳児研修

期日 令和七年五月十九日(月)
会場 コンセーレ(大ホール)
参加 一〇七名
テーマ 「乳児の描画・造形遊び」
講師 ことも環境デザイン研究所

代表 矢生 秀仁氏
〇歳、三歳、六歳のお子さん

講話と実技を通して、描画や造形の理解を深めた。

冒頭で「乳児期の造形表現は、遊びの一部であり、大人が教え導くものではない。子どもは感覚や出会いを通して自ら育っていく存在であり、大人が考えている以上に物事を理解している。そういった視点で子どもを見ていくと、造形表現が遊びとつながっていく。視点を交えて捉えてほしい」との話があった。



乳児期の表現には段階がある。まず、「かく・きる・はる・おる・やる・まめる」といった行動そのものを楽しむ行動表現。次に、偶然にできた形に意味を見出す行動発想表現。さらに、頭の中のイメージを形にする想像表現へと発展していく。これらはいずれも、結果を目指すのではなく、過程を楽しむことが



中心となる。活動の中で子どもが楽しみながら繰り返し遊ぶことによって、やがてイメージを持って作るようになっていく。「やる

せる」ではなく、「やってみよう」という気持ちが自然に生まれるような活動や環境を用意することが重要であり、子どもの反応を丁寧に見取りながら、次の活動へとつなげていく姿勢が求められる。また、乳児と幼児では興味や関心の方向性に違いがあるが、「自分が楽しいと感じること」が出発点となる。「今日は楽しかった」「明日も楽しみ」と思えるような日々を子どもたちが過ごせるようにすることが、保育の中で大切にしていきたい点である。

第一回 保育セオリー講座

期日 令和七年六月五日(木)
会場 コンセーレ(大ホール)
参加 百十名
内容 「幼児期における発達の違いに応じた支援のあり方について」～遊びを通して考える～
講師 マロニエ医療福祉専門学校 作業療法学科 専任教員 稲毛 優希氏

今回のセオリー講座は、「幼児期における発達の違いに応じた支援のあり方について」をテーマに講師の作業療法士としての視点から解説された。日々の保育の中で向き合う、発達が遅れがちな幼児への支援のヒントを心身両面へのアプローチの具体例を示していただき、参加者が保育の現場ですぐに実践できるアイデアがいっぱいの内容であった。



研修を通して理学療法が、歩く・座るなどの基本的動作を対象としているのに対して、作業療法は、心と体の両面を対象としていることがわかった。発達の速度がさまざまな乳幼児に対して、保育者が成長の後押しをするために重要なことがある。「安心安全な環境づくり(失敗しても大丈夫と思えることができる)」「体作り(体幹)を中心とした遊びの提供

供(ボルダリング等)」「たくさんさんの感覚に触れることができる遊びの提供(泥遊びなど)」であることを学んだ。



令和七（二〇二五）年度の事業

今年度も引き続き、県全体の幼児教育の質の向上・幼小の円滑な接続推進の一助となるよう努めて参ります。

研修の詳細は、令和七（二〇二五）年度版「幼児教育センター研修案内」を御参照ください。

保育所保育士研修〔新規採用〕

四月三日、新規採用幼稚園教諭等研修第一日を総合教育センターで実施し、二五四名が研修に臨みました。

開講式では、齋藤成宏こども政策課長、船田弘和栃木県幼稚園連合会理事長、前原由紀幼児教育センター長より挨拶があり、社会人として保育に携わる新採者へ歓迎の言葉と温かいエールが送られました。

研修オリエンテーション後、「とちぎっ子の学びを支える保育者として子ども主体の保育とは」 「保育の実践と省察」

「幼児期の保健管理と安全管理」について講話や演習を行いました。

新採者からは、
子どもたちのウェ
ルビーイングのた



めに、子どもたちのやりたいことをやれる環境を作ったり、子どものしていることを肯定的に受け止めたりしたい」「記憶は消えてしまいが記録は残るため、日々の保育の記録を大切にしたい」「子どもが怪我をしたときの対処法や保護者への伝え方を学ぶことができた」などの感想がありました。

新採者が主体的に学び、組織の一員として行動する実践的指導力を身に付け、明日からの意欲につながる研修となるよう努めます。



五月十四日に、総合教育セン

五月十四日に、総合教育センターで第一日を実施しました。教職五年目の幼稚園教諭・幼保連携型認定こども園の保育教諭一〇〇名が研修に臨みました。

「教職五年目への期待」「幼児期に育みたい資質・能力」「園における安全教育」「環境を構成する際の教材の工夫」「幼児・園児とものとの関わり」について、講話や演習を行いました。

講話・演習を通

して受講者からは、「五年目としての心構えや安全教育、教材の工夫に関する講話を聞いて、改めて自分の保育を振り返るきっかけ



けとなった」「子どもの声を聴き、子どもを理解し、環境を通して行う教育及び保育を磨きたい」「一人一人の発達段階を理解し、リスクとハザードを考慮していく必要があるのだと学んだ」「教材研究の大切さを再認識し、子どもの姿から見つめ直して、遊びの質を高めていきたい」などの感想があり、自身のキャリアステージを意識して意気軒昂と研修に臨む姿が見られました。

組織の一員としての自覚と保育の
実践的指導力の向上となるよう、研
修内容の充実に努めて参ります。

指導資料について



令和六年度幼児教育調査研究の成果物「架け橋期の教育に関する認識の共有を旨指して」全ての大人が立場の違いを越えて」を作成しました。架け橋期の教育の特性について広く認識の共有を図るために、幼稚園、こども園、保育所、小学校、保護者、行政が立場の違いを越えて、それぞれの立場でできる取組についてまとめました。架け橋期の教育の充実を図るための参考資料として、ぜひ、御活用ください。

研修の申込みは、こちらの研修案内（三月送付）を御活用ください。

研修の申込みはQRコードからの申込みとなりますので、御承知おきください。

また、研修案内は、幼児教育センターのWebサイトにも掲載しております。

各研修実施初日2週間前までが申込み受付期間となります。



センター職員紹介

新メンバー

- センター長 前原 由紀
● 鹿沼市立中央小学校より
● 指導主事 小林身 and 子
● 益子町立益子西小学校より
● 幼児教育指導員 中山 昌樹
● 認定こども園あかみ
● 幼稚園理事長



マスコットキャラクターの
ピヨちゃんですピヨ!

よろしくお願いいたします

- 大豆生田顧問
- 富川指導主事
- 大坪指導主事
- 小林指導主事
- 中山幼児教育指導員
- 天川副主幹
- 前原センター長
- 野中幼児教育指導員



こども政策課だより

四月の定期異動により、齋藤成宏課長が着任し、子ども・子育て支援班では、植竹班長、檜山主査、小又主事が配属となりました。
引き続き、幼児教育の振興や子育て支援の充実に努めて参りますので、今年度もよろしく願います。



- 初見主任
- 大貫主任
- 越場主任
- 羽入主事
- 鈴木主任
- 篠崎主任
- 檜山主査
- 小又主事
- 植竹子ども・子育て支援班長
- 齋藤課長
- 阿部課長補佐(総括)
- 相澤主任

学校基礎調査について

私学助成を選択する幼稚園に対する教職員確認等のヒアリングを今年度も実施する予定ですので、御協力をお願いします。

詳細については、対象の幼稚園に通知しますので御確認ください。

各種届出書類について

園則や園地・園舎、理事・監事等の変更を行った場合は、各種届出を提出してください。

● 学校法人の令和六年度決算書及び令和七年度収支予算書の提出期限は六月三十日です。

● 令和六年度決算に伴う資産総額の変更登記を寄附行為で定める期日までに、登記済届を提出してください。

慶事

● 令和七年度県各種功労者表彰(県知事表彰)
認定こども園呑竜幼稚園
理事長・園長 小林 研介 先生
認定こども園釜井台幼稚園
理事長 山崎 直子 先生

令和七年七月～九月までの事業予定

7月2日	※中堅幼稚園教諭等資質向上研修 保育テクニカル講座
7月8日	※中堅幼稚園教諭等資質向上研修 保育テクニカル講座
7月9日	※中堅幼稚園教諭等資質向上研修 保育テクニカル講座
7月15日	※中堅幼稚園教諭等資質向上研修 保育テクニカル講座
7月23日	③新採研(集合研修)
7月30日	※中堅幼稚園教諭等資質向上研修 全日私幼関東地区教研大会(茨城)
8月4～5日	※中堅幼稚園教諭等資質向上研修 新採研(宿泊研修)代替研修
8月8日	※中堅幼稚園教諭等資質向上研修 新採研(宿泊研修)代替研修
8月19日	※中堅幼稚園教諭等資質向上研修 新採研(宿泊研修)代替研修
8月19～20日	(財)幼児教育実践学会 第72回県教研大会
8月20～22日	バス安全運転講習会
8月22日	※幼稚園等教職5年目研修 保育セオリー講座
9月2日	※幼稚園等教職5年目研修 保育セオリー講座
9月3日	※幼稚園等教職5年目研修 保育セオリー講座
9月4日	※幼稚園等教職5年目研修 保育セオリー講座
9月9日	0・1・2歳児研修 ※教育課程研究集会
9月18日	※中堅幼稚園教諭等資質向上研修 設置者・園長研修会
9月25日	※中堅幼稚園教諭等資質向上研修 設置者・園長研修会
9月26日	※は幼児教育センター事業

弔事

● 足利市 認定こども園足利こぼと幼稚園
理事長・園長 三田 恵子 先生
令和七年三月二十三日逝去

● 宇都宮市 認定こども園中鶴田幼稚園
理事長 太田 榮 先生
令和七年五月十八日逝去

● 下都賀郡壬生町 幼稚園型認定こども園
学校法人壬生学園おもちゃのまち幼稚園
前園長 小野塚 謙三 先生
令和七年五月二十六日逝去

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

雨音が日常のBGMとなる季節。じめじめとした空気のなかにも、紫陽花の鮮やかさやカエルの合唱に季節の風情を感じる六月。子どもたちは長靴をはいて水たまりを楽しんだり、雨上がりの空に虹を探したりと、こちらの気分まで明るくしてくれます。

さて、近年「退職代行サービス」を使って職場を離れる人が増えているというニュースを目にします。もちろん、背景には深刻な事情や人間関係の悩みがあることも理解していますが、どこか割り切れない思い、モヤモヤとした気持ちが残るのも正直なところ。「せめて最後は自分の言葉で伝えてほしい」と思ってしまうのは、古い感覚なのでしょうか。

私たちの職場も、誰かが心に負担を抱えたまま動き続けるような場所であってはなりません。保育の質を高めていくには、まず大人が安心して思いを伝え合える環境が必要だと改めて感じます。

子どもたちが育つ場所は、私たち大人自身が「どう在りたいか」を映す鏡でもあります。雨に濡れた葉のように、たとえ重たさを感じる日があっても、その一滴一滴が未来につながると信じて、また一歩前へ進んでいきたいものです。

(虹ヶ丘認定こども園 月江 正太郎)